

■資料 3-1 「資料 3 硫化水素自主測定結果について」 (説明用資料)

依然、硫化水素の発生は継続しているものの、平成 28 年、29 年頃のレベル（数万 ppm）からは低下し、変動はあるが概ね横ばい（1000ppm 以下）の地点が多い。

2-4 については、5000～6000ppm 程度で推移していたが、7 月のみ 10800ppm となり、過去（H29 10000～13000ppm）と同じレベルとなった。原因は特定できていないが、今後とも注視していく状況にある。

●(p2) 測定地点ガス抜き管位置図（図 1 参照）について

○処分場内にガス抜き管は全 50 本。うち、2-6 と 2-8、2-10 と 3-6、12 と 12'は他のガス抜き管と合流させている。2-9、2-11 は覆土用土砂の仮置のため閉塞している。新たに新 13 を設置した。

●(p3) 硫化水素自主測定結果のうち、表 1 原ガス（ガス管内）の濃度について

○硫化水素濃度変動について

- ・令和 3 年 7 月の調査では地点 2-4 が最も高い(10,800ppm)。同地点は令和 2 年 3 月以降、数千～10,000ppm 程度で推移している。
- ・濃度が高い地点 2-4、2-7、2-8、2-10、3-3、3-4、4-1 の 7 本については出口に脱硫装置（ヒューム管方式）を設置し、対策をとっている。
- ・脱硫剤の交換を毎週行っているが、6 月～7 月にかけて交換頻度は少なくなる状況になっている。降雨・気温等の変化の影響も受けることから、注意深く監視する。

●(p4) 硫化水素自主測定結果のうち、表 2 脱硫装置通過後の濃度について

- ・脱硫剤の交換時期の判断のため、風下 50cm において硫化水素濃度を確認している。この結果をとりまとめた表である。※30 秒間計測時の最大指示値
- ・最大値は風下 50cm で 5.2ppm（地点 2-4、11 月）あった。風下 2m で測定したところ、0.0ppm であった（脱硫剤交換実施）。（前回報告）
今年度においては、最大値は、4.2ppm（地点 2-4、4 月）で、多くは 0.0ppm の状況となっており、令和 2 年 4 月以降の調査の結果とほぼ同じ状況であった。
- ・風下 50cm で硫化水素が検出された回数は、今年度においては、令和 3 年 7 月まで 5 回あった（調査回数のおよ 252 回中）。全て脱硫剤を交換している。
- ・測定および脱硫剤交換に当たっては、ガス警報器を携帯し、硫化水素用防毒マスクを着用して作業を行っている。

●(p5) クリーンセンター滋賀 臭気等調査地点図 (図2参照) および
(p6) 埋立地周囲の濃度 (表3参照) について

- ・クリーンセンター滋賀敷地境界 (正門前) および埋立地周辺6地点において硫化水素濃度の測定を月1回実施 (平成28年9月以降)。
- ・令和元年5月以降、全地点において硫化水素不検出(0.002ppm未満)が継続している。

●(p7~p8) 脱硫装置等の概略図 について

- ・①ヒューム管設置式：地点2-4、2-7、2-8、2-10、3-3、3-4、4-1に設置
- ・②ポリエチレン管設置式：地点6、2-3に設置
- ・③ガス抜き管内部充填式：地点2-5、4-11に設置
- ・④キャッピング：地点11、12'、13、3-5、4-3等に適用
(ガス抜き管を頻繁に延伸する場所など脱硫装置を設置できない場合)